10.3.8 動物

動物に係る調査,予測の手法並びにその選定理由については,表 $10.3.8-1\sim4$ に示すとおりである。

表 10.3.8-1 動物(切土工等又は既存の工作物の除去,工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の 設置)に係る事業特性及び地域特性

DCE / 1 10 0 1 11	77712070 777712
当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
都市計画対象道路の主な構造は、高架橋(嵩上式)、	都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲には、哺乳
トンネル(地下式、掘割式)、高架橋・トンネル以外の	類1種,鳥類52種,爬虫類1種,昆虫類13種,魚類8種,底
地表面の道路(地表式)である。	生動物で9種,合計84種の重要な動物が生息する可能性が
切土工等又は既存の工作物の除去, 工事施工ヤードの	ある。
設置及び工事用道路等の設置により、重要な種及び注目	
すべき生息地への影響が考えられる。	

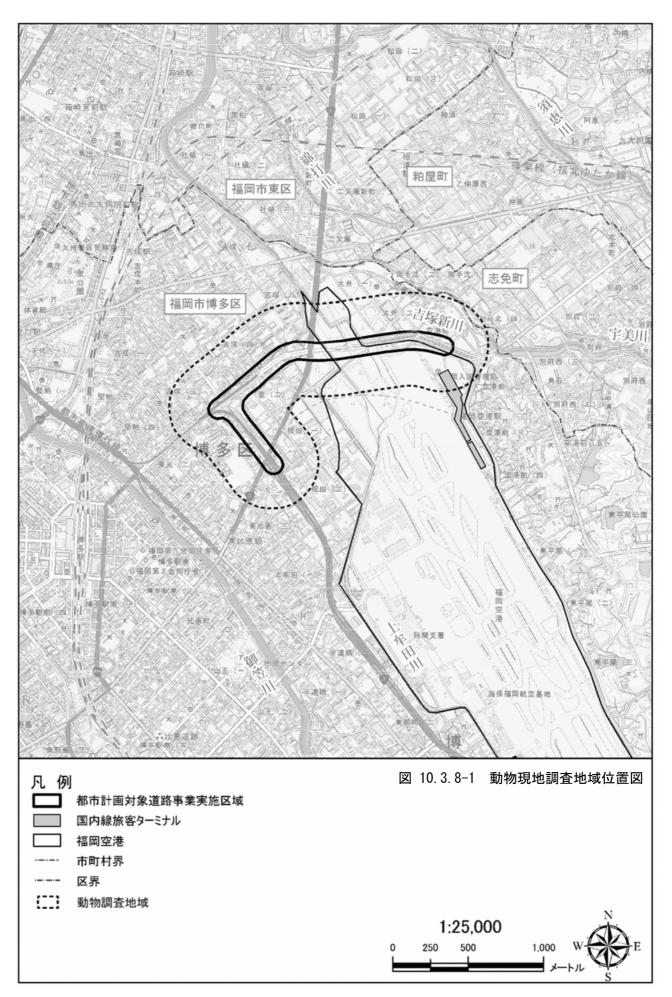
表 10.3.8-2 動物(切土工等又は既存の工作物の除去,工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の 設置)に係る調査、予測手法等

設置)に係る調査,予測手法等					
	評価の項目			選定の理由	
環境要素	影響要因		調査及び予測の手法		
の区分	の区分				
及び注目	工事の実施 [切土工等 又は既存の 工作物の除		1)哺乳類,鳥類,両生類,爬虫類,昆虫類,魚類,底生動物に係る動物相の状況 2)動物の重要な種の分布,生息の状況及び生息環境の状況 3)注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況	工事の実施 にあたって は,一般的 な工法を採 用 す る た	
	去,工事施 エヤードの 設置及び工 事用道路等 の設置]		文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 [文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 [現地調査] 哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類、魚類及び底生動物について現地で観察や採集を行うことにより情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。	め令参参事地びの言て,に考考業域専技を選達基手と特特門術踏定務づ法し性性家的ま定省くを,,及等助えす	
		調査地域	都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺(都市計画対象道路事業 実施区域及びその端部から約 250m 程度の範囲) とし,図 10.3.8-1 に示す地域とする。	る。	
		調査地点	動物の生息の特性を踏まえ、調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とする。 [文献その他の資料調査]都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺を対象とする。 [現地調査] 調査地域内に生息する動物を確認しやすい場所に、調査地点又は調査ルートを設定する。		
		調査期間等 予測の基本 的な手法	動物の生息の特性を踏まえ、調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。 [文献その他の資料調査] 至近の情報とする。 [現地調査] 哺乳類:春季、夏季、秋季、冬季(各1回) 鳥類:春季、初夏季、夏季、秋季、冬季(各1回) 両生類・爬虫類:春季、夏季、秋季(各1回) 昆虫類:春季、夏季、秋季(各1回) 魚類:春季、夏季、秋季(各1回) 魚類:春季、夏季、秋季、冬季(各1回) 飯生動物:春季、夏季、秋季、冬季(各1回) 丁生動物:春季、夏季、秋季、冬季(各1回) 丁生動物:春季、夏季、秋季、冬季(各1回) 丁生動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえ、重要な種及び注目すべき		
		予測地域 予測対象 時期等	調査地域のうら、動物の生息の特性を踏まえ、重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 動物の生息の特性を踏まえ、重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。		

表 10.3.8-3 動物(道路(地表式又は掘割式, 嵩上式, 地下式)の存在)に係る事業特性及び地域特性

当該項目に関連する事業特性 当該項目に関連する地域特性 都市計画対象道路の主な構造は,高架橋(嵩上式), 都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲には,哺乳 トンネル(地下式、掘割式)、高架橋・トンネル以外 類1種, 鳥類52種, 爬虫類1種, 昆虫類13種, 魚類8種, 底 の地表面の道路(地表式)である。 生動物で9種、合計84種の重要な動物が生息する可能性が 道路の存在により, 重要な種及び注目すべき生息地 ある。 への影響が考えられる。

表 10.	3.8-4 動物	」(道路(地表式又は掘割式,嵩上式,地下式)の存在)に係る調査, ⁻	予測手法等_	
環境影響	評価の項目				
環境要素	影響要因		調査及び予測の手法		
の区分	の区分				
1	[道路(地表		動物相の状況 2)動物の重要な種の分布,生息の状況及び生息環境の状況	うため,主	
	式又は掘割 式, 嵩上式, 地下式)の存 在]		による方法とする。 [現地調査] 哺乳類,鳥類,両生類・爬虫類,昆虫類, 魚類及び底生動物について現地で観察や採	性、大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	
		調査地域	都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺(都市計画対象道路事業実施区域及びその端部から約 250m 程度の範囲) とし,図 10.3.8-1 に示す地域とする。	する。	
		調査地点	動物の生息の特性を踏まえ、調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とする。 [文献その他の資料調査] 都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺を対象とする。 [現地調査] 調査地域内に生息する動物を確認しやすい場所に、調査地点又は調査ルートを設定する。		
		調査期間等	動物の生息の特性を踏まえ、調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。 [文献その他の資料調査] 至近の情報とする。 [現地調査] 哺乳類:春季、夏季、秋季、冬季(各1回) 鳥類:春季、初夏季、夏季、秋季、冬季(各1回) 両生類・爬虫類:春季、夏季、秋季(各1回) 昆虫類:春季、夏季、秋季(各1回) 魚類:春季、夏季、秋季、冬季(各1回) 底生動物:春季、夏季、秋季、冬季(各1回) 底生動物:春季、夏季、秋季、冬季(各1回)		
			動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。		
		7 2 7 - 7 1	調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえ、重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。		
			動物の生息の特性を踏まえ、重要な種及び注目すべき生息地に係る 環境影響を的確に把握できる時期とする。		



10.3.9 植物

植物に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 10.3.9-1~4 に示すとおりである。

表 10.3.9-1 植物(切土工等又は既存の工作物の除去,工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の 設置)に係る事業特性及び地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
都市計画対象道路の主な構造は、高架橋(嵩上式)、	都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲は、扇状
トンネル(地下式、掘割式)、高架橋・トンネル以外	地,三角州等の平野,砂礫台地,自然堤防等で構成され,
の地表面の道路(地表式)である。	市街地や工場地帯,公園等として利用されており、16種の
切土工等又は既存の工作物の除去、工事施工ヤード	重要な植物が記録されている。また、対象区域内には重要
の設置及び工事用道路等の設置により、重要な種及び	な植物群落に指定された植物群落はない。
群落への影響が考えられる。	

表 10.3.9-2 植物(切土工等又は既存の工作物の除去,工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の 設置)に係る調査,予測手法等

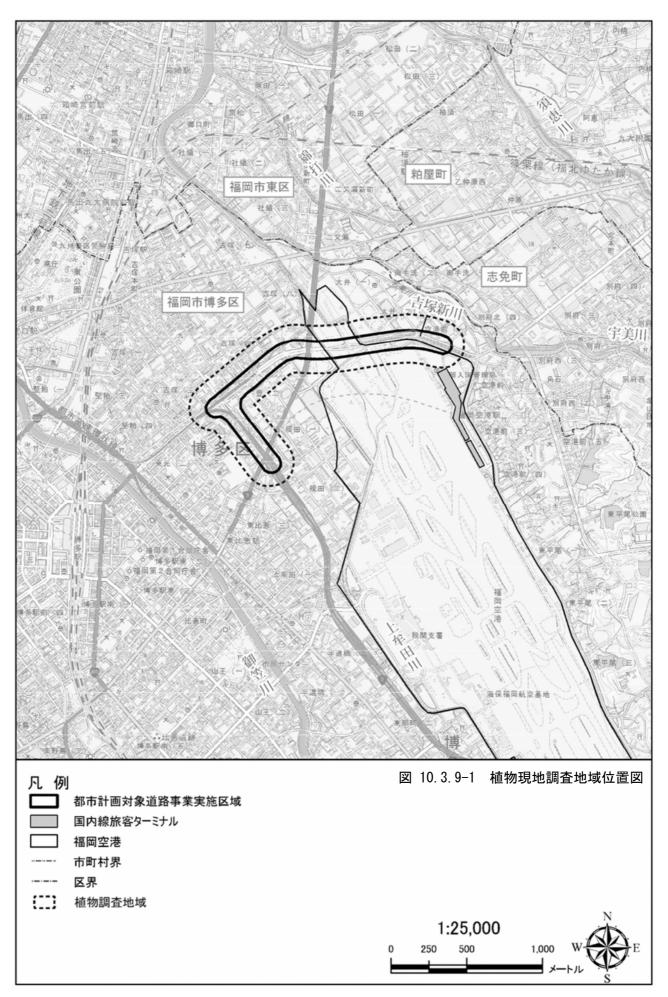
設直)に係る調査、予測手法寺					
	評価の項目				
環境要素	影響要因	調査及び予測の手法		選定の理由	
の区分	の区分				
	工事の実施	調査すべ	1)種子植物その他主な植物に関する植物相及び植生の状況	工事の実施	
及び群落		き情報	2)植物の重要な種及び群落の分布,生育の状況及び生育環境の状	にあたって	
	[切土工等又	C IH TIX	况	は,一般的	
	は既存の工		文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報	な工法を採	
	作物の除去,		の整理及び解析による方法とする。	用するた	
	工事施工ヤ	調査の基	[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による		
	ードの設置	本的な手	情報の収集並びに当該情報の整理及び解析		
	及び工事用	法	による方法とする。	参考手法を	
	道路等の設		[現地調査] 植物について現地で観察を行うことによる		
	置]		情報の収集並びに当該情報の整理及び解析		
			による方法とする。	地域特性及	
		1 I.b.	都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺(都市計画対象道路	び専門家等 の技術的助	
		調査地域	1,000,000 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		
			10.3.9-1 に示す地域とする。		
			植物の生育及び植生の特性を踏まえ、調査地域における重要な種	て選定す	
			及び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報が表現し、	る。	
		調査地点	報を適切かつ効果的に把握できる地点または経路とする。		
		.,	[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。		
			[現地調査] 調査地域内に生育する植物を確認しやすい		
			場所に調査地点又は調査ルートを設定する。		
			植物の生育及び植生の特性を踏まえ、調査地域における重要な種品が表現し、アンジャンは、アンジャン・		
		細木細目	及び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報ない。これ思めなか思めない。		
		神宜州	報を適切かつ効果的に把握できる期間,時期及び時間帯とする。 [文献その他の資料調査]至近の情報とする。		
		寸	[現地調査] 植物相:春季,夏季,秋季(各1回)		
			植 生:秋季(1回)		
		子測の甘	植物の重要な種及び群落について、分布又は生育環境の改変の程		
			度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。		
		本的な子	反で囲みんにず例り打用人は肝例による力伝とする。		
		14	調査地域のうち、植物の生育及び植生の特性を踏まえ、重要な種		
		予測地域	及び群落に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域		
		1 伊地地	及い研修に示る原規形響を支げるわてれがあると認められる地域とする。		
		- 子測 計争	植物の生育及び植生の特性を踏まえ、重要な種及び群落に係る環		
		時期等	電視の発育及び恒生の特性を踏まれ、重要な種及び特格に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。		
		时为守	免が書されまた11年(ひめ7巻)とりる。		

表 10.3.9-3 植物(道路(地表式又は掘割式、嵩上式、地下式)の存在)に係る事業特性及び地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
都市計画対象道路の主な構造は、高架橋(嵩上式)、	都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲は、扇状
トンネル(地下式、掘割式)、高架橋・トンネル以外	地,三角州等の平野,砂礫台地,自然堤防等で構成され,
の地表面の道路(地表式)である。	市街地や工場地帯,公園等として利用されており、16種の
道路の存在により、重要な種及び群落への影響が考	重要な植物が記録されている。また, 対象区域内には重要
えられる。	な植物群落に指定された植物群落はない。

表 10.3.9-4 植物(道路(地表式又は掘割式, 嵩上式, 地下式)の存在)に係る調査, 予測手法等

環境影響	評価の項目			
	影響要因	調査及び予測の手法		
の区分	の区分			
	土地又は	.,	1)種子植物その他主な植物に関する植物相及び植生の状況	道路を整備
及び群落	工作物の	き情報	2)植物の重要な種及び群落の分布,生育の状況及び生育環境の状況	することに
	存在及び		文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の	より、土地
	供用		整理及び解析による方法とする。	の改変を行
		調査の基	[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情	
	[道路(地	本的な手	報の収集並びに当該情報の整理及び解析によ	
	表式又は	法	る方法とする。	づく参考手
	掘割式,嵩	12	[現地調査] 植物について現地で観察を行うことによる情	
	上式, 地下		報の収集並びに当該情報の整理及び解析によ	
	式)の存		る方法とする。	性, 地域特
	在]		都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺(都市計画対象道路事	性及び専門
		調査地域	業実施区域及びその端部から約 100m 程度の範囲) とし,図 10.3.9-1	家等の技術
			に示す地域とする。	的助言を踏
			植物の生育及び植生の特性を踏まえ、調査地域における重要な種及	まえて選定
			び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を	する。
		調査地点	適切かつ効果的に把握できる地点または経路とする。	
		.,	[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。	
			[現地調査] 調査地域内に生育する植物を確認しやすい場	
			所に調査地点又は調査ルートを設定する。	
			植物の生育及び植生の特性を踏まえ、調査地域における重要な種及	
		3EE → + 140 EE	び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を	
		.,	適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。	
		等	[文献その他の資料調査] 至近の情報とする。 はまれる まま 夏季 だま (タイラ)	
			[現地調査] 植物相:春季,夏季,秋季(各1回)	
		マ畑の甘	植 生:秋季(1回) 植物の重要な種及び群落について、分布又は生育環境の改変の程度	
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		本的な手法	を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。	
		広	調査地域のうち、植物の生育及び植生の特性を踏まえ、重要な種及	
		予測地域	調査地域のから、値物の生育及び値生の特性を踏まれ、重要な値及び群落に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とす。	
		1′侧地坝		
		圣测 拉色	る。 植物の生育及び植生の特性を踏まえ、重要な種及び群落に係る環境	
		時期等	影響を的確に把握できる時期とする。	



10.3.10 生態系

生態系に係る調査,予測の手法並びにその選定理由については,表 10.3.10-1~4 に示すとおりである。

表 10.3.10-1 生態系(切土工等又は既存の工作物の除去,工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の 設置)に係る事業特性及び地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
都市計画対象道路の主な構造は、高架橋(嵩上式), トンネル(地下式、掘割式),高架橋・トンネル以外	都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の自然環境の類型区分は、「平野の市街地」、「丘陵地の二次林・
の地表面の道路(地表式)である。 切土工等又は既存の工作物の除去、工事施工ヤード	公園」,「湿生草地」,「都市内河川」の4区分となる。
切工工等又は既存の工作物の除去、工事施工ヤートの設置及び工事用道路等の設置により、地域を特徴づ	
ける生態系への影響が考えられる。	

表 10.3.10-2 生態系(切土工等又は既存の工作物の除去,工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置)に係る調査 予測手法等

	の設置)に係る調査,予測手法等			
環境影響	評価の項目			
環境要素	影響要因		調査及び予測の手法	選定の理由
の区分	の区分			
地域を特	工事の実施	=m → 1- »	1)動植物その他の自然環境に係る概況	工事の実施
徴づける		調査すべ	2)複数の注目種等の生態,他の動植物との関係又は生息環境もし	にあたって
生態系	[切土工等又	き情報	くは生育環境の状況	は,一般的
	は既存の工		文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報	な工法を採
	作物の除去,		の整理及び解析による方法とする。	用するた
	工事施工ヤ	押木の甘	[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による	め,主務省
	ードの設置	調査の基	情報の収集並びに当該情報の整理及び解析	
	及び工事用	本的な手	による方法とする。	参考手法を
	道路等の設	法	[現地調査] 「動物」「植物」の現地調査結果による情報	参考とし,
	置]		の収集並びに当該情報の整理及び解析によ	事業特性,
			る方法とする。	地域特性及
			都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺(都市計画対象道路	び専門家等
		調査地域	事業実施区域及びその端部から約250m程度の範囲)とし,	の技術的助
			図 10.3.8-1 に示す地域とする。	言を踏まえ
			動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえ、調	て選定す
		調査地点	査地域における注目種に係る環境影響を予測し、及び評価するた	る。
			めに必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路と	
			し,「動物」「植物」と同様とする。	
			動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえ、調	
			査地城における注目種等に係る環境影響を予測し,及び評価する	
		調査期間	ために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間,時期及び	
		等	時間帯とする。	
			[文献その他の資料調査]至近の情報とする。	
			[現地調査] 調査期間は、「動物」「植物」と同様とする。	
		予測の基	注目種等について、分布、生息環境又は生育環境の改変の程度を	
		本的な手	踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。	
		法		
			調査地域のうち、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の	
		予測地域		
			認められる地域とする。	
			動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえ、注	
		時期等	目種等に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。	

表 10.3.10-3 生態系 (道路(地表式又は掘割式, 嵩上式, 地下式)の存在)に係る事業特性及び地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
都市計画対象道路の主な構造は、高架橋(嵩上式)、	都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の自然環
トンネル(地下式、掘割式)、高架橋・トンネル以外	境の類型区分は,「平野の市街地」,「丘陵地の二次林・
の地表面の道路(地表式)である。	公園」,「湿生草地」,「都市内河川」の4区分となる。
道路の存在により、地域を特徴づける生態系への影	
響が考えられる。	

表 10.3.10-4 生態系 (道路(地表式又は掘割式, 嵩上式, 地下式)の存在) に係る調査, 予測手法等

12 10.	U. IV T 上池		(地衣丸又は掘刮丸、高工丸、地下丸)の仔仕)に除る調宜、	<u> ア冽ナ法寺</u>	
	響評価の項目			選定の理由	
環境要素	影響要因		調査及び予測の手法		
の区分	の区分				
_ ,	土地又はエ	調査すべ	1)動植物その他の自然環境に係る概況	道路を整備	
徴づける	作物の存在	き情報	2)複数の注目種等の生態,他の動植物との関係又は生息環境もし	することに	
生態系	及び供用	○ I用TX	くは生育環境の状況	より, 土地	
			文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報	の改変を行	
	[道路(地表		の整理及び解析による方法とする。	うため、主	
	式又は掘割	調査の基	[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による		
	式,嵩上式,	木的カチ	情報の収集並びに当該情報の整理及び解析		
	地下式)の存	法	による方法とする。	法を参考と	
	在]	亿	[現地調査] 「動物」「植物」の現地調査結果による情報	し,事業特	
			の収集並びに当該情報の整理及び解析によ	性, 地域特	
			る方法とする。	性及び専門	
			都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺(都市計画対象道路	家等の技術	
		調査地域	事業実施区域及びその端部から約250m程度の範囲)とし,	的助言を踏	
			図 10.3.8-1 に示す地域とする。	まえて選定	
			動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえ、調	する。	
		調査地点	査地域における注目種に係る環境影響を予測し、及び評価するた		
		神重地点	めに必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路と		
			し、「動物」「植物」と同様とする。		
			動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえ、調		
			査地城における注目種等に係る環境影響を予測し、及び評価する		
		調査期間	ために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び		
		等	時間帯とする。		
			[文献その他の資料調査] 至近の情報とする。		
			[現地調査] 調査期間は,「動物」「植物」と同様とする。		
		予測の基	注目種等について、分布、生息環境又は生育環境の改変の程度を		
		本的な手	踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。		
		法			
			調査地域のうち、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の		
		予測地域	特性を踏まえ、注目種等に係る環境影響を受けるおそれがあると		
			認められる地域とする。		
		予測対象	動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえ、注	 	
		時期等	目種等に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。		

10.3.11 景観

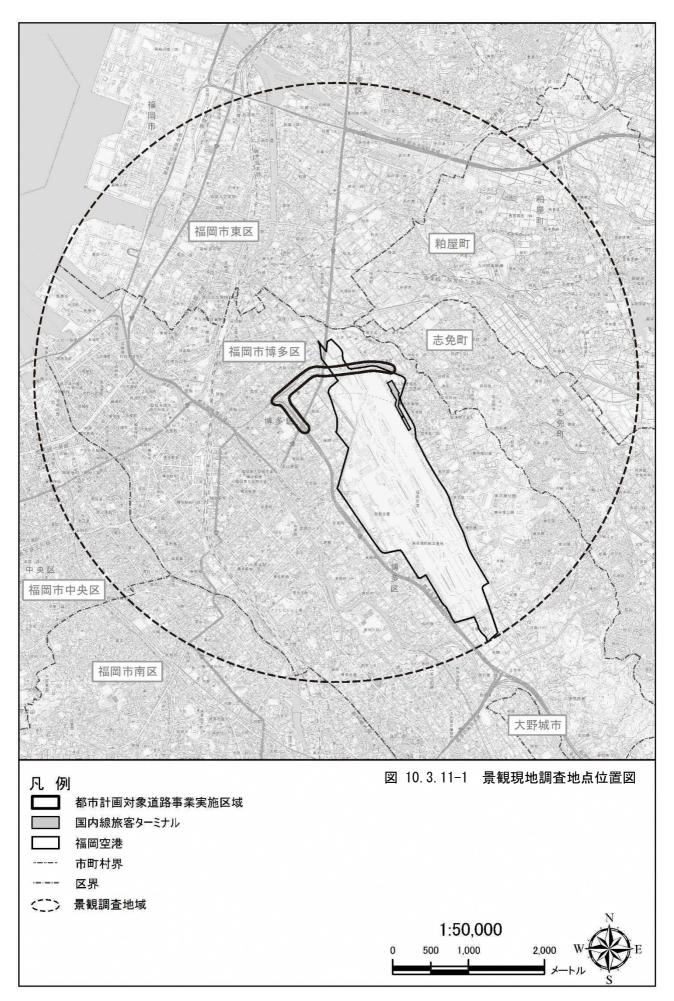
景観に係る調査,予測の手法並びにその選定理由については,表 10.3.11-1~2 に示すとおりである。

表 10.3.11-1 景観(道路(地表式又は掘割式, 嵩上式)の存在)に係る事業特性及び地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
都市計画対象道路の主な構造は、高架橋(嵩上式)、	都市計画対象道路事業実施区域は、主として、市街地と
トンネル(地下式、掘割式)、高架橋・トンネル以外	工業地帯,公園,草地等で構成されている。
の地表面の道路(地表式)である。	都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲には,主要
道路の存在により、主要な眺望点及び景観資源並び	な眺望点として福岡県庁展望室,東平尾公園(貝花展望
に主要な眺望景観への影響が考えられる。	台),東平尾公園(アクシオン福岡),福岡空港国内線展
	望室・送迎デッキ,福岡空港国際線送迎デッキ等がある。
	自然的構成要素として位置づけられる主な景観資源はな
	V _o

表 10.3.11-2 景観(道路(地表式又は掘割式, 嵩上式)の存在)に係る調査, 予測手法等

	10. 3. 11 ⁻ Z	大学 (大臣)	6(地衣丸又は掘割丸、高工丸)の仔住川に添る調宜、ア渕十)	
環境影響評価の項目		選定の理由		
	影響要因	調査及び予測の手法		
の区分	の区分			
主要な眺	土地又は		1) 主要な眺望点の状況	道路を整備
望点及び	工作物の	調査すべ	2) 景観資源の状況	することに
景観資源	存在及び	き情報	3) 主要な眺望景観の状況	より, 土地
並びに主	供用		4) 都市景観の状況	の改変を行
要な眺望			文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報	うため,主
景観	[道路(地		の整理及び解析による方法とする。	務省令に基
	表式又は		[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による	づく参考手
	掘割式,嵩	調査の基	情報の収集並びに当該情報の整理及び解析	法を選定す
	上式)の存	本的な手	による方法とする。	る。
	在]	法	[現地調査] 現地踏査及び景観写真撮影等による情報の	
			収集並びに当該情報の整理及び解析による	
			方法とする。	
			主要な眺望点の状況,主要な景観資源の状況,主要な眺望景観の	
			状況、都市景観の状況を適切に把握できる範囲(都市計画対象道	
		調査地域	路事業実施区域及びその端部から約3km程度の範囲)とし、図	
			10.3.11-1 に示す地域とする。	
			景観の特性を踏まえ、調査地域における主要な眺望点及び主要な	
			景観資源並びに主要な眺望景観、都市景観に係る環境影響を予測	
			し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握でき	
		調査地点	る地点とする。	
		MAT. COM	[現地調査] 調査地域内において,主要な眺望点及び景観	
			資源並びに主要な眺望景観、都市景観の変化	
			を把握できる地点とする。	
			景観の特性を踏まえ、調査地域における主要な眺望点及び景観資	
			源並びに主要な眺望景観、都市景観に係る環境影響を予測し、及	
		調杏期間	び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期	
		等	間、時期及び時間帯とする。	
		-1	[文献その他の資料調査] 至近の情報とする。	
			[現地調査] 主要な眺望景観:夏季,冬季(各1回)	
			主要な眺望点及び景観資源についての分布の改変の程度を踏まえ	
		子測の其	た事例の引用又は解析による方法とする。また、主要な眺望景観	
		本的な手		
		本的な子法	いてはスケッチ・パース法等による視覚的な表現手法を用いて、	
		14	完成予想図を表現し、眺望景観の変化を予測する方法とする。	
		マ. 知山山は子	調査地域のうち、景観の特性を踏まえ、主要な眺望点及び景観資源がなる。	
		予測地域	源並びに主要な眺望景観、都市景観に係る環境影響を受けるおそれがまる。	
		マ 2m(ユ.) か.	れがあると認められる地域とする。	
		予測対象	景観の特性を踏まえ、主要な眺望景観、都市景観に係る環境影響	
		時期等	を的確に把握できる時期とする。	



10.3.12 人と自然との触れ合いの活動の場

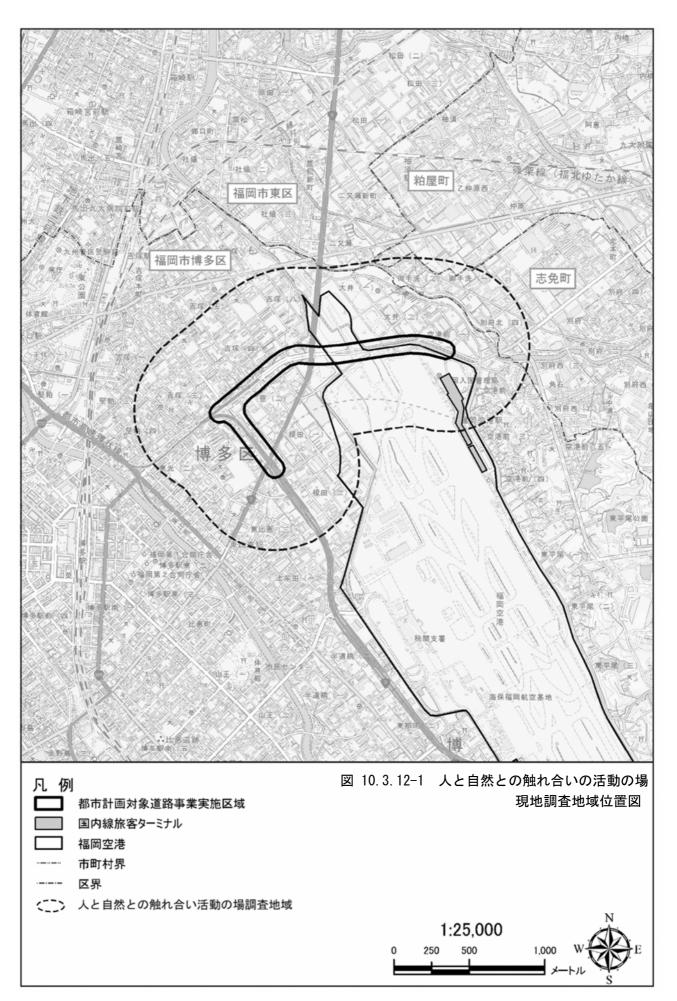
人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査,予測の手法並びにその選定理由については,表 10.3.12-1~2 に示すとおりである。

表 10.3.12-1 人と自然との触れ合いの活動の場(道路(地表式又は掘割式, 嵩上式)の存在) に係る事業特性及び地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
都市計画対象道路の主な構造は、高架橋(嵩上式)、	都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲には,東平
トンネル(地下式、掘割式)、高架橋・トンネル以外	尾公園,運動施設を備えている榎田中央公園や大井中央公
の地表面の道路(地表式)である。	園等の主要な人と自然との触れ合いの活動の場がある。
道路の存在により、主要な人と自然との触れ合	
いの活動の場への影響が考えられる。	

表 10.3.12-2 人と自然との触れ合いの活動の場(道路(地表式又は掘割式, 嵩上式)の存在) に係る調査、予測手法等

に係る調査、予測手法等				
環境影響	評価の項目			
環境要素			調査及び予測の手法	選定の理由
の区分	の区分			
との触れ 合いの活	土地又は工 作物の存在 及び供用	調査すべき 情報	2)主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布,利用の状況及 び利用環境の状況	地の改変を
動の場	[道路(地表式又は掘割式, 嵩上式)の存在]		文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 [文献その他の資料調査] 観光案内図等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 [現地調査] ヒアリング及び現地踏査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。	主務省令に 基づく参考 手法を選定 する。
		調査地域	都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺(都市計画対象道路 事業実施区域及びその端部から約 500m 程度の範囲)とし,図 10.3.12-1に示す地域とする。	
		調査地点	人と自然との触れ合いの活動の場の特性を踏まえ、調査地域における主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。 [文献その他の資料調査] 調査地域内とする。 [現地調査] 調査地域内において、主要な人と自然との触れ合いの活動の場の変化を把握できる地点とする。	
		調査期間等	人と自然との触れ合いの活動の場の特性を踏まえ、調査地域における主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。 [文献その他の資料調査] 至近の情報とする。 [現地調査] 1 年間を通じて平均的な状況であると考えられる休日(1日)の昼間1回とする。	
		予測の基本 的な手法	主要な人と自然との触れ合いの活動の場について,分布又は利用環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。	
		予測地域	調査地域のうち、人と自然との触れ合いの活動の場の特性を踏ま え、主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を受 けるおそれがあると認められる地域とする。	
		予測対象 時期等	人と自然との触れ合いの活動の場の特性を踏まえ,主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。	



10.3.13 廃棄物等

廃棄物等に係る調査,予測の手法並びにその選定理由については,表 10.3.13-1~2 に示すとおりである。

表 10.3.13-1 廃棄物等(切土工等又は既存の工作物の除去)に係る事業特性及び地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
都市計画対象道路の主な構造は、高架橋(嵩上式)、	福岡県等では,環境基本計画,廃棄物処理計画,建設リ
トンネル(地下式、掘割式)、高架橋・トンネル以外	サイクル推進計画が策定されており,目標等が定められて
の地表面の道路(地表式)である。	いる。
切土工等又は既存の工作物の除去による廃棄物等	
による影響が考えられる。	

表 10.3.13-2 廃棄物等(切土工等又は既存の工作物の除去)に係る調査,予測手法等

環境影響 環境要素 の区分	評価の項目 影響要因 の区分		調査及び予測の手法	選定の理由
建設工事 に伴う副 産物	工事の実施 [切 土 工 等 又 は 既 存 の 工 作 物 の 除	調査すべき情報	1)発生する廃棄物等の種類 2)廃棄物等の種類ごとの発生抑制の方法及び循環的な利用に関す る技術 3)廃棄物等の種類ごとの処分又は循環的な利用に供する施設の状 況	工事の実施 にあたっ般 は,一般的 な工法を採 用 す る た
	去]	調査の基本 的な手法	析による方法とする。	選定する。
		調査地域	廃棄物等が発生する都市計画対象道路事業実施区域を基本とする。 なお,再利用方法の検討に当たっては,実行可能な再利用の方策を 検討するため,都市計画対象道路事業実施区域の周辺区域を含む範 囲 (例えば建設発生土であれば「50km 圏内」)とする。	
		予測の基本 的な手法	建設工事に伴う副産物の種類ごとの発生の状況並びに処分又は循環的な利用の状況を把握するための適切な手法とする。	
		予測地域	都市計画対象道路事業実施区域とする。	
		予測対象 時期等	工事期間とする。	

10.4 評価の手法

10.4.1 環境影響の回避, 低減に係る評価

調査及び予測の結果並びに環境保全措置を検討した場合においては、その結果を踏まえ、対象事業の実施により選定項目に係る環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて検討する。環境要素毎の評価の手法は、表 10.4.1-1 に示すとおりである。

表 10.4.1-1(1) 評価の手法

表 10.4.1-1(1) 評価の手法		
環境要素の区分 		評価の手法
	大気質 (二酸化窒素, 浮遊粒子状物質)	調査及び予測の結果(建設機械の稼動,資材及び機械の運搬に用いる車両の運行, 自動車の走行に伴う大気質の寄与濃度)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ, 環境要素に及ぶおそれがある影響が,実行可能な範囲内でできる限り回避され,ま たは低減されており,必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が 適正になされているかどうかについて評価する。
	大気質 (粉じん等)	調査及び予測の結果(建設機械の稼動、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う大気質の寄与濃度)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
大気環境	騒音	調査及び予測の結果(建設機械の稼動,資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に 伴う騒音レベルの増加分,自動車の走行に伴う増加分)並びに環境保全措置の検討 結果を踏まえ,環境要素に及ぶおそれがある影響が,実行可能な範囲内でできる限 り回避され,または低減されており,必要に応じその他の方法により環境の保全に ついての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
j	超低周波音	調査及び予測の結果(自動車の走行に伴う増加分)並びに環境保全措置の検討結果 を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回 避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全につい ての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
1	振動	調査及び予測の結果(建設機械の稼動,資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に 伴う振動レベルの増加分,自動車の走行による増加分)並びに環境保全措置の検討 結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限 り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全に ついての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
水環境	水質(水の濁り)	調査及び予測の結果(切土工等又は既存の工作物の撤去に伴う水質の寄与濃度)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
土壌に 係る環 境その	地盤(地下水環境)	調査及び予測の結果(切土工等又は既存の工作物の撤去に伴う地下水位の変化,道路の存在に伴う地下水位の変化)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
他の環境	その他の環境要素 (日照阻害)	調査及び予測の結果(道路の存在に伴う日陰の変化)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
動物		調査及び予測の結果(工事の実施及び道路の存在による動物への影響)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。

表 10.4.1-1(2) 評価の手法

環境要素の区分	評価の手法
植物	調査及び予測の結果(工事の実施及び道路の存在による植物への影響)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
生態系	調査及び予測の結果(工事の実施及び道路の存在による生態系への影響)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
景観	調査及び予測の結果(道路の存在による景観への影響)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素によって及ぶおそれのある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
人と自然との触れ合いの活 動の場	調査及び予測の結果(道路の存在による人と自然との触れ合いの活動の場への影響)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素によって及ぶおそれのある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。
廃棄物等	調査及び予測の結果(切土工等又は既存の工作物の撤去に伴う廃棄物等への影響)並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。

10.4.2 国又は地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策との整合性

国又は関係する地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策によって、選定項目に係る環境要素に関して基準又は目標が示されている場合には、当該基準又は目標と調査及び予測の結果との間に整合が図られているかどうかを検討し評価する。環境要素毎の評価の手法は、表 10.4.2-1 に示すとおりである。

表 10.4.2-1(1) 評価の手法

環境要素の区分		評価の手法
大気環境	大気質 (二酸化窒素、浮遊粒 子状物質、粉じん等)	「大気の汚染に係る環境基準」及び「粉じん等(降下ばいじん量)の参考値」等と 予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られてい るかについて評価する。
	騒音	「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準値」及び「騒音に係る環境基準」と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。
	超低周波音	国又は福岡県による超低周波音に係る規制値や環境基準は定められていないが,文献その他の資料を参考に整合性が図られているかについて評価する。
	振動	「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準値」及び「道路交通振動の要請限度」と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。
水環境 水質 (水の濁り)		都市計画対象道路事業においては、水質(水の濁り)に係る規制値は定められていないが、文献その他の資料を参考に環境基準等との整合性が図られているかについて評価する。
土壌に係る環境の関	地盤(地下水環境)	「福岡市環境配慮指針(改定版)」において、「事業別環境配慮事項」の「交通基盤整備事業」での「トンネルの造成は自然環境(生物生息地、植生、水脈など)に局所的な影響を与える可能性」に対する配慮として示されている環境との関わりと予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。
他の環境	その他の環境要素 (日照阻害)	「公共施設の設置に起因する日陰により生ずる損害等に係る費用負担について」, 「建築基準法」及び「福岡市建築基準法施行条例」と予測結果を比較することによ り、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。
動物		「福岡市環境配慮指針(改定版)」において、「内陸部」のゾーン区分の「人が日常生活の中で身近な生き物と出会える、自然とのふれあいにあふれるまち」と示されている環境保全の目標や、「事業別環境配慮事項」の「交通基盤整備事業」での「施工時に自然環境(生物生息地、植生、水脈など)の損傷・消失をもたらす可能性」に対する配慮として示されている環境との関わりの予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。
植物		「福岡市環境配慮指針(改定版)」において、「内陸部」のゾーン区分の「人が日常生活の中で身近な生き物と出会える、自然とのふれあいにあふれるまち」と示されている環境保全の目標や、「事業別環境配慮事項」の「交通基盤整備事業」での「施工時に自然環境(生物生息地、植生、水脈など)の損傷・消失をもたらす可能性」に対する配慮として示されている環境との関わりと予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。
生態系		「福岡市環境配慮指針(改定版)」において、「内陸部」のゾーン区分の「人が日常生活の中で身近な生き物と出会える、自然とのふれあいにあふれるまち」と示されている環境保全の目標や、「事業別環境配慮事項」の「交通基盤整備事業」での「施工時に自然環境(生物生息地、植生、水脈など)の損傷・消失をもたらす可能性」に対する配慮として示されている環境との関わりと予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。
景観		「福岡市環境配慮指針(改定版)」における「ゾーン別環境配慮方向」の「内陸部」 に係る配慮事項のうち、本事業の内容を踏まえ、「学術的に価値の高い地形・地質 の保全」及び「優れた自然景観資源の保全」等と予測結果を比較することにより、 環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。

表 10.4.2-1(2) 評価の手法

環境要素の区分	評価の手法
人と自然との 触れ合いの活動の場	「福岡市環境配慮指針(改定版)」における「ゾーン別環境配慮方向」の「内陸部」 に係る配慮事項のうち、本事業の内容を踏まえ、「学術的に価値の高い地形・地質の 保全」及び「優れた自然景観資源の保全」等と予測結果を比較することにより、環 境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。
廃棄物等	「九州地方における建設リサイクル推進計画 2014」(九州地方建設副産物対策連絡協議会)において、循環型社会の構築の観点から、建設廃棄物の再資源化率(排出量に対する再資源化及び再使用された量の比率)、再資源化・縮減率(排出量に対する再資源化、縮減及び再使用された量の比率)及び建設発生土の有効利用率(土砂利用量に対する建設発生土利用量の比率)に関する目標指標が示されている。この環境保全の目標と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。